

# 令和6年度 学校評価報告書

学校名	三田市立けやき台小学校
-----	-------------

## 1 学校教育目標

夢に向かって 堂々と歩む子の育成  
 ～あきらめず挑戦し 自尊感情を高めるけやきっ子～  
 元気で明るい子・やさしく素直な子・興味を持ち、伝え合って学ぶ子  
 けやきの A(エース)をめざせ

## 2 今年度の学校重点目標

- ・本に親しむ子の育成
- ・あかるくあいさつができ、笑顔と歌声があふれる学校づくり
- ・児童の自治的な活動を支援
- ・ICT 機器を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫改善
- ・多様な教育的ニーズに応えられるよう組織で対応し、すべての子どもたちが安心して学べる教育環境の充実(ユニバーサルデザイン化)
- ・業務改善・校務及び行事のスリム化による勤務時間の適正化

## 3 総合的な自己評価

今年度の職員、保護者、児童の三者それぞれのアンケート結果も、ほとんどの項目で肯定的評価(あてはまる・少しあてはまる)の値が目標値の80%を大きく超え大変良好であった。また、昨年度結果と比較すると、ほとんどの項目に関してポイントの増減は±3ポイント以内であり、昨年度と同等の結果といえる。その中において、職員アンケートの「あいさつ」「清掃」「言葉遣い」「読書」と保護者アンケートの「読書」に関する結果のみ、80%を下回る結果である。昨年度から引き続き本校の課題である。

「あいさつ」に関しては、本校の学校目標の一つでもある。児童評価が92%、保護者評価が84%職員評価52%の肯定的評価であった。「清掃」「言葉遣い」項目同様、職員と児童の結果の差が、指導の難しさに表れている。今年度、「校内でも、お互いにあいさつができる学校に」という目標を設け取り組んできた。来年度以降も、全職員が、クラス、学年の枠を越え、全校児童に対して積極的にあいさつし、一人ひとりの児童に応じて声をかけていく取り組みを続けていく。

「読書」についても、本校の課題として取り組んでいる。今年度は、「家族読書の日」の徹底、毎学期の「読書ウィーク」の朝読書に加え、図書ボランティアの協力のもと、毎日、図書の貸し出しを行うことができるようになった。残念ながら児童の肯定的評価の値は、昨年度同様の結果である。しかし、「あてはまらない」の値が、4%減少している点は、今年度の取り組みが結果として表れている。来年度も、さらに職員が意識し、児童が読書する機会を設定し、学校司書や図書ボランティア、委員会と連携し環境を整え、家庭とも連携しながら、読書に取り組む習慣や本に出合う機会を設けていきたい。

「学校の勉強はわかる」「学校の勉強は楽しい」「分からない勉強をしっかり教えてくれる」「学習のめあてをもち、あきらめず努力している」については、肯定的評価が90%を越えている。本校の研究「算数科」において、まず自分で問題と向き合い、図や絵を用いながら自分の考えを友だちと交流して学んでいく対話式授業の取り組みの成果ととらえられる。

「学校での生活は、楽しい」の児童の肯定的評価は94%と高評価である。生徒指導では、ケース会議等を実施することにより、職員が情報を共有し、より良い支援の仕方を検討し、児童に働きかけることができた。今年度、サポートルームの設置により、学校に居場所ができた児童もいる。否定的評価の7%の児童を今後も継続して見守り支援する必要がある。

あいさつ、言葉遣い、清掃活動等も含め基本的な生活習慣については、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを育む取り組みを今後も継続していきたい。

## 4 総合的な学校関係者評価

学校評価の項目を経年比較することで、教育活動等についてより丁寧に検討されようとしている姿勢に敬意を表する。

本年度も、工夫をされて学校運営がなされたと推察されるが、校長のリーダーシップのもと、組織的・計画的に様々な教育活動を実施できた点は大いに評価できる。HP 等を用いて日頃から積極的な発信が行われていることで、学校の姿勢がうかがえる。

子どもたちの力を伸ばすため、教職員の資質向上に継続的に努めており、「学びに向かう力を育てる」というテーマで研修を深められている。算数科の研究においては、児童同士が互いに学び合っている様子が見られる。子どもたちが算数の面白さを味わっているような授業研究を今後も継続していただきたい。

「あいさつ」に関しては、子どもだけでなく大人にとっても課題であると思う。あいさつができる地域にしていけるよう、地域からも声を上げていきたい。

重点的な課題と示された「読書」については、学校司書や図書館ボランティア、家庭との連携を図り、取り組みを継続していただきたい。本から得られる知識、本から学び取る力を育成してもらいたい。

学校支援ボランティア活動については、積極的にかかわる機会を作っていた。「ボランティア通信」を発行していただき、保護者に活動を知ってもらい、ボランティアの人数が少しずつ増えてきたことはうれしい。今後とも、地域での子どもたちの安全安心についても、関係機関と連携・協力を図り、学校・家庭・地域が一体となって、児童の育成に努めてまいりたい。

## 5 評価結果

自己評価		学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策
教育目標 教育方針	教育目標及び教育方針、学校重点目標が、児童や地域、学校の実態や、教育課題に即応している。	・「けやき台小学校が好きだ」の肯定的評価は昨年より約3%数値が上がり94%と大変良好である。しかし、否定的評価の児童が、6%存在する。 ・登下校の見守り隊、てんとうむしさんによる読み聞かせ、がんばりタイム、音楽ボランティア、授業におけるゲストティーチャー、学校ボランティア等、様々な場面で学校支援ボランティアと連携を取り、地域の方々や保護者の協力を得ながら、教育目標の達成に向けて取り組みをすすめることができた。 ・学校行事や学級会など、各場面で児童を目標に立ち返らせ、意識付けながら取り組むことができた。	・児童・教師が、元気に、ゆとりをもって取り組んでいけるように、学校行事、学年行事など内容の見直しと精選を行う。 ・今後も、学校・家庭・地域の連携を密にし、学校教育目標の達成に向け、クラスの実態や児童の様子を担当だけでなく学年、学校全体で共有し、児童を中心に考えた教育活動を展開していく。 ・キャリア教育の視点からも、学校、学年、クラスの目標を意識し、一年を通して各教科学習や特別活動、学校行事等の各場面において、児童に目標を意識させたり、振り返らせたりする機会を継続して設ける。
	めざす児童像、教師像、学校像の具現化に向け、本年度の学校重点目標を意識した指導ができています。	・「学校生活は楽しい」の児童アンケート結果が肯定的評価は94%。昨年度から2ポイント上昇し、高評価である。 ・本校の研究「算数科」とともに、「人権教育」「特別支援教育」「生徒指導」「情報教育」「外国語科」等、計画的に職員研修を持ち、資質・指導力の向上に努めることができた。 ・めざす児童像にある、「あいさつ」に関して、継続して取り組んでいくことが課題である。	・「楽しくない」と回答している児童の見守りを行う。 ・気になる児童を把握し、その児童への積極的な声掛けを行う。 ・「自尊感情を高める取り組みを一層すすめる。 ・教師が、特別活動を意識し、児童が主体的に楽しい学校づくりをできるよう働きかける。 ・業務改善に努め、教師の授業研究・教材開発の時間を確保する。子どもたちが勉強するのが楽しくなるような魅力ある授業づくりに一層努める。
教育課程	教育課程の編成(週時程・日課表・行事等)は適切である。	・「週時程・日課表等」について肯定的評価94%である。 ・「年間計画・学校行事の内容及び時期」について、肯定的評価88%と30ポイント上昇した。 ・昨年度の反省を受け、2学期の運動会と音楽会の開催時期を調整した。また、練習の期間や方法を工夫することができた。 ・1学期の時数や各学期初めの時数を減らすことで、ゆとりを持って、学習生活を送ることができた。 ・99%の児童は達成感を味わうことができた。	・5分休みが短いとの考えもあるが、昼休み時間や、下校時刻等を考え時程の変更は行わない。高学年の教室の移動時間を確保し、授業の開始終了時刻を意識して取り組む。 ・来年度は、運動会、自然学校など大きな学校行事の時期が変更になる。年間計画を工夫していくと共に、各行事の実施内容の見直しも行う。
	各教科・領域における授業時数は適切に確保できている。	・「各教科領域における年間計画の内容及び時間は適正」についての肯定的評価の値は100%で6ポイント上昇した。 ・年間計画が適切に機能したことで、授業時数を確保し、計画的に学習を進めることができた。	・今後も年間授業時数を意識した行事計画を行っていく。 ・各教科の年間指導時数を常に把握しながら、児童の理解度、スピードに合わせた授業計画、授業時間確保をすすめる。
学習指導	各教科の基礎的・基本的な内容を確実に教え、評価の基準を定め、指導方法を工夫して理解の徹底を図ることができている。	・児童アンケートの「学校の勉強はわかる」の肯定的評価は95%で高評価である。「あてはまらない」と答えた児童は0%である。 ・職員アンケートの「目標を明らかにした指導計画に基づいた授業を行っている」「評価基準に基づき、指導と評価の一体化を進めることができています」における肯定的評価が100%である。 ・計画的で目標を明らかにした授業、指導と評価を一体化した授業を行うことができ、児童にとってわかる授業に繋がっている。 ・学年毎に、授業研究と共に評価ポイント、評価方法などを話し合い、共通理解のもと、計画的に指導を進め評価でき	・基礎基本の定着と、思考力や判断力、表現力、さらに主体的に取り組む力(粘り強く学習に取り組む力、学習調整力)を伸ばせるような授業改善に今後も努めていく。 ・学びの基礎である基本的な計算力や漢字の定着を目指して、計算練習・漢字練習の時間や補充学習の時間の確保を継続する。 ・読む・書く・話す等、国語科で培った言語力を他教科でも生かせるような教科横断的な取り組みの推進をしていく。

		た。		子どもの学習を見守り、学校と家庭が協力して子どもたちの学習を支えていくことが大切だと思う。 ・学校は、「学習の楽しさ」「学習する意味」を教えるところだと思う。決して「答えや正解を教える場」ではないので、そのような教育を今後も続けてほしい。
	確かな学力を身に付けさせるように、自ら学習する意欲を高める、工夫ある授業づくりに努めている。	・児童アンケートの「学校の勉強は楽しい」は、肯定的評価が90%で、昨年度より2ポイント上昇した。保護者アンケートの「子どもは前向きに授業に取り組んでいる」の肯定的評価は今年度も97%。職員アンケートの「工夫ある授業づくり」について肯定的評価は昨年度 92%から3ポイント上昇し95%である。 ・毎週火曜日、学年の打ち合わせの時間を取り、学年で共通理解しながら、行事や教材研究を進めることができた。 ・「学校における学習規律を整え、児童に学習習慣を身につけさせるための指導ができています」は、昨年度より4ポイント減少し、肯定的評価は91%であった。 ・「家庭学習に自主的に取り組む」においては、肯定的評価が、保護者86%、児童93%と高評価であった。	・学校行事や学年行事など、子どもたちにとってゆとりある取り組みとなるよう、見直し及び縮小することで、落ち着いた学習できる環境を整える。 ・児童が思わず引き込まれる、考えたくなる、熱中できるような授業を展開できるよう、校内や学年でさらに授業研究に取り組む。 ・すべての学習の基盤となる学習規律の徹底を図るため、具体的な手立てについて、学年で共通理解し、実践をすすめる。	
	個々の児童の到達段階の把握に努め、一人ひとりの基礎学力づくりに取り組んでいる。	・「先生たちは分からない勉強をしっかり教えてくれる」は昨年と同程度で、肯定的評価が96%と高い。 ・「学習のめあてをもち、あきらめずに努力している」の肯定的評価は、97%で4ポイント上昇している。 ・各教科において、授業のめあてとふりかえりを意識して学習指導に取り組めた。	・「がんばりタイム」を継続して実施し、個々に応じた指導を行えるように児童への指導体制と内容を整える。 ・児童の実態を次年度に引き継ぎ、児童一人ひとりに有効な指導を続けることを継続する。 ・学習計画を児童と共有することで、ふりかえりで自己調整を行いながら学習を進め、粘り強く学習に取り組む力の育成を目指す。	
	夢を持ち、挑戦する意欲を育てることができている。	・「学校行事や委員会、クラスの係・当番など、自分の役割を最後までやりとげている」の肯定的評価は昨年度より2ポイント上昇し、96%であった。 ・「児童が自分の役割を果たしながら、他者と協力・協働しする力を養う指導を行っている」の肯定的評価は、昨年度より3ポイント上昇し、100%であった。 ・総合的な学習の時間や道徳科、キャリアノートなど各学年で計画的に、自分を見つめ振り返ったり、未来について考えたりする時間を持つ事ができている。	・児童会や委員会活動、学級活動等において、児童が主体的に自主的に学校生活を楽しくするための企画ができるよう支援する。 ・今後も継続し、学校行事、クラスの当番活動や係活動、高学年の委員会など、場面ごとに、めあてとふりかえりを大切に、挑戦できているか、最後まで取り組めたかを考える機会を通して達成感を味わわせていく。 ・一人ひとりが大切に必要な活動を行っていることを認め合い、「自己有用感」を感じさせていきたい。	
生徒指導	学校いじめ防止基本方針に基づき、校長・教頭の指導のもと、全職員が連携し、問題行動や不登校、いじめ等の問題に組織的に取り組んでいる。	・「いじめやなことがあったとき、先生たちは話をよく聞いて解決してくれる」の肯定的評価96%、「いじめや問題があったとき、先生たちに相談しやすい」の肯定的評価94%、「児童の問題行動について、学年等で情報を提供する事ができている」の肯定的評価100%であった。 ・いじめ等の緊急の指導事案、不登校児童、児童の抱える問題等について、生活指導委員会、不登校対策委員会を中心に、組織的に取り組んでいる。 ・今年度も、職員打ち合わせの場で、児童交流をおこない職員の共通理解を図ることができた。 ・ケース会議を実施し、SSW・SC・指導補助員等とともに、児童に対しよりよい支援の仕方を検討している。	・児童が誰かに相談しようと思えるための意識付けや、相談しやすい環境、時間の確保などを継続して行う。 ・今後も継続して、問題行動や対応事案等について、指導内容等を諸対応メモにまとめて、回覧し、関係職員、教員全体で共通理解を図る。 ・今後も、SSW・SC・指導補助員や関係機関との連携を深め、児童に対し様々な方面から支援の方法を検討していく。 ・学校・家庭・地域が連携して子どもたちの成長を見守っていく体制づくりを推進する。	・不登校の問題については、今後とも、中学校や各関係機関と連携をとって対応していただきたい。 ・地域で子どもたちと出会う時にも、気持ちのよいあいさつができる子とそうでない子に分かれることが気になる。 ・一年生の見守りの後は、子どもたちが安心して挨拶をしてくれる。知っている人には、安心して声をかけてくれる様子が見える。 ・どれくらい家庭で「あいさつ」ができていのだろうか。大人が見本になって取り組んでいく必要があると考える。学校だけでなく、家庭と地域も共に取り組んでいきたい。 ・近所との付き合いが希薄になる中、心を許せる人が身近にいることが大切。地域のつながりを考えていかねばならない。子どもたちは、気持ちを許せる人に対しては、しっかりとあいさつできている。 ・刻々と変化するネットや SNS の問題については、児童の実態をしっかりとらえ、継続して指導していかねばならない。家庭との連携も大切である。 ・登下校や地域でくらしの中でも、安全安心が確保されるよう、関係機関と連携し取組を進めていくことが大切である。
	あいさつや清掃、その場に合った言葉遣いなどの基本的な生活習慣・マナーを確立するように指導ができています。	・「あいさつ」に関するアンケートの肯定的評価は、職員52% (昨年度54%)、保護者84% (昨年度85%)、児童92% (昨年度89%)となり、三者に意識の開きがある。 ・昨年度から「校内でもあいさつができる児童」を目指し取り組んでいる。 ・あいさつができる児童とできない児童に開きがある。 ・全校朝会、学年集会、「愛ありがとう集会」を通して、「感謝」や「あいさつ」の意義を考える機会を持つことができた。 ・「そうじ」に関するアンケートの肯定的評価は、職員77%、児童98%と、教師と児童との意識にずれがある。 ・美化委員会による、掃除を積極的にできるような取り組みを行うことができた。 ・「言葉遣い」に関するアンケートの肯定的評価は、職員86% (5ポイント上昇)、保護者92% (2ポイント減少)、児童96% (昨年度同様)の結果であった。 ・全校朝会、学年集会、保健委員会の発表等で「あったか言葉」について考える機会を持つことができた。	・今後も、あいさつに対して考える機会を設け、児童と共にあいさつの大切さ、目標を共通確認する。 ・全職員が同じ熱量で指導を意識し、クラス学年に関わらず声をかけることで、意識改革を促すなど、校舎内でのあいさつもできるように全職員で積極的に取り組む。 ・児童会活動や学年において、児童が主体的に取り組むあいさつについての活動を構築する。 ・あいさつや言葉遣い、掃除など、できていることに対して肯定的評価を意識して増やしていく。 ・掃除の仕方「けやきモデル」を年度初めに共通理解していく。 ・教師の掃除への姿勢を大切にしていく。 ・掃除に対しては、方法の指導だけでなく、その意味や価値を児童とともに考えていくとともに、掃除や整理整頓については、家族の一員としての役割を保護者とともに考えていく。	
特別支援教育	特別な配慮や支援を要する児童の児童理解に努め、指導に活かしている。	・職員アンケート「個別の指導計画や教育の支援計画を適切に作成し、活用することができた」肯定的評価は、100% (11ポイント上昇)であった。 ・個別の指導計画や教育の支援計画についての研修を4月に持つことで、適切に作成し、それらを活用することができた。 ・児童理解研修や職員会議、職員打ち合わせの場で、児童の状態や情報を共有し、対応できた。	・継続して、児童理解研修会や特別支援に関わる研修を計画的に行っていく。	・子どもたちのことを丁寧に理解し、計画的に取組を進められており、今後も同様の体制を整備していかねばならない。 ・十分な人員の確保についても強く望む。
	学校や関係機関、家庭との連携調整を図り、支援体制を充実させている。	・職員アンケート「特別支援のための校内支援体制が整備され、適切な支援が行われている」肯定的評価は、100% (昨年度同様)であった。 ・校内委員会の設置、特別支援コーディネーターとの連携、職員研修の実施等、特別支援のための校内支援体制が整備され、適切な支援を行うことができた。 ・教師の空き時間を活用した支援体制を配備することができた。	・職員間で児童の状況を共有し、支援が必要な児童に適切な支援が行えるように、全職員が協力し、今後も継続して体制を整えていく。 ・誰でも相談しやすい環境作りを進めていく。	
保護者・地域住民との連携	PTA・地域ボランティアとの連携により、教育環境整備を行い、地域の核となる学校づくりを進めている。	・「学校・学年、ボランティア通信やホームページ等での情報発信」についての肯定的評価は、職員、保護者とも98%以上と大変高い。 ・HPを頻りに更新し、校長室前の大型モニターにその時々の児童の活動の様子をスライドショーで流す等、本校の取り組みを常時発信することができた。 ・「地域の方々と一緒に勉強や活動することが楽しい」の児童の肯定的評価は91% (1ポイント上昇)であった。 ・学校支援ボランティアの活動が充実し、今年度は給食ボランティアや図書ボランティア (読み聞かせ) が更に充実した。 ・年間計画に基づき、学校支援ボランティアと連携して教育活動を行うことができた。	・HPの定期的な更新、ボランティア通信等、情報発信を継続して行う。 ・学校支援ボランティアとの連携を深め、小学校の教育活動について保護者及び地域の方々をボランティアとして招き、支援していただく活動を今後も行っていく。活動内容等、データを残し継続して取り組みやすい仕組みを作る。 ・ボランティアさんへ手伝っていただいていることへの感謝の気持ちを教師から児童へ意識して伝えていく。 ・学期に1回のボランティア通信の発行を継続する。 ・ボランティア交流会の実施を継続して行い、各担当と地域コーディネーターとの意見交流を行っていく。	・HPや学校だより、校長室前の児童の様子のスライドショー等を有効に活用し、学校の取組を積極的に発信されていることは大いに評価できる。 ・今後も学校支援ボランティア等を積極的に活用してほしい。 ・「ボランティア通信」は、保護者に活動を知ってもらう機会になり、保護者との横のつながりを持つ事ができた。感謝している。
学力向上指導改善	「学びに向かう力を育てる」算数科の授業づくりを行い、「思考力の育成」に努めている。	・児童アンケート「算数科の学習で、自分の力で考えたり、みんなと交流しながら自分の考えを伝えたりしている」は肯定的評価が95% (3ポイント上昇)であり良好である。 ・自分の意見や考え方を発表し、「対話」を重視し思考力を深める授業展開について、研究の方向性を職員で共有し、学年で取り組み、その積み重ねが主体的に取り組む児童の姿につながっている。 ・ノートコンテストなど、新たな取り組みを行う中で考えを深めることができた。	・本校の研究「算数科」の授業研究・研修を今後も続け、問題を解く過程を説明していく対話的活動を取り入れながら、思考力を育成する授業に取り組んでいく。 ・考えることの楽しさを味わえるような授業展開をより一層工夫していく。 ・普段の授業の質を上げていくことができるよう、実践や教材を保存し、共有しやすい環境を作る。 ・本校の研究についての取り組み、児童の様子を保護者に発信していく。	・算数科では、問題の色々な方向からの考え方や解き方を子どもたち同士が学び合い、算数の面白さを味わっていると感じる。 ・宿題の問題が先生のオリジナル問題で、子どもたちが楽しく取り組んでいる。チャレンジ問題もあり、自分なりの解き方に楽しみながら挑戦できる工夫がされていることがうれしい。 ・今後も、若手の先生たちと一緒に授業研究を

	すこやかな体づくりをめざした取り組みを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「体育の時間や休み時間に進んで運動したり、体を動かしたりしている」の肯定的評価は94%であり良好である。</li> <li>・体育委員会で大縄大会やなわとびチャレンジを企画し、休み時間には、多くの児童が外で大縄やなわとび練習に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、状況に対応しながら、体育委員会の児童を中心に、積極的に運動に取り組める活動を企画していく。</li> <li>・なわとびや鉄棒カードを作成し、休み時間や放課後にも、目標をもって意識的に運動に取り組めるよう計画する。</li> <li>・保護者に対して、学年で取り組んでいる体育の内容や運動について知らせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>され、子どもたちが面白さを味わえる授業づくりに取り組んでもらいたい。</li> <li>・重点的な課題と示された「読書」については、学校と家庭が連携した取り組みが必要である。</li> <li>・本を読むには、まず手に取る必要がある。毎日、休み時間いつでも借りに行けるようになったことは良かった。</li> <li>・幼少期は簡単に読むことができる短い絵本に出会うことが大切である。そして、小学校では、興味が広がり、図鑑や漫画、レシモ本、物語など読む物の種類が広がっている時期になる。その中で、少しずつ長い文章を読むことや、読めるような力をつけていってほしい。</li> <li>・本を読むことは、じっくり考える力や、表現力を養うことにもつながるので、小学校の時期にたくさんの本を読んでほしい。</li> <li>・本をオーディオブックで聞く人も増えているが、基本は文字を読むことだと思う。</li> </ul>
	自主的により良い学校づくりに取り組もうとする児童を育てることができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三者評価とも、肯定的評価が95%以上と良好であった。</li> <li>・今年度新たに、「全校みんな遊び」を児童から出た意見を元に実施できた。一年生を迎える会、けやぎネス、運動会、6年生を送る会、感謝の集い等、継続して児童会主催で行うことができた。</li> <li>・各委員会の取り組みも活発に行うことができた。</li> <li>・学年、学級目標を意識し、特別活動での話し合い活動、係活動や委員会活動を通して、より良い学級や学校を作ろうとする意欲の育成が図ることができた。</li> <li>・子どもたちの自治的、自主的な力の育成を目指し、全学年で学級会活動に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「より良い学校、より楽しい学校」にするために、児童が自ら新しいアイデアを出し合いながら主体的に進められるよう、児童会活動、委員会活動、学級会等支援していきたい。</li> <li>・今後も、児童が自主的に取り組める活動の可能性を考え、年度初めに年間予定を明確に立てておく。</li> <li>・一人ひとりが生き生きとできる活動づくりを行う。</li> </ul>	
	読書好きの児童を育てることができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の課題である。</li> <li>・経年3年間を比較すると、児童アンケート「本を読むことが好き」肯定的評価は、87%→84%→85%である。学年が上がるにつれ肯定的評価が減少する傾向がある。保護者アンケート「子どもはよく読書をしている」肯定的評価は、63%→62%→61%となった。例年と大きな変化はない。</li> <li>・一方児童アンケートの中で「あてはまらない」と答えた児童の割合は、7%から3%となり、今年度4ポイント減少した点は注目したい。</li> <li>・今年度から図書ボランティアの協力のもと、学校司書がいなくても毎日貸出が行えるようになった。また、図書室前の児童参加型の季節感のある掲示や、読み聞かせも行われた。昨年度と比べると、貸出冊数は約3300冊増え、貸出者数は約1200人増えている。</li> <li>・今年度も、毎月23日の「家族読書の日」を全校で徹底し、宿題を読書とした。</li> <li>・今年度も、毎学期、読書ウィークを設定し、全校朝読書を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も職員が意識して、児童の読書時間の確保や読書好きの児童の育成に取り組んでいく。</li> <li>・読書ウィークを、1、3学期に1週間とする。2学期は「読書の秋」として、読書ウィークを2週間に延ばし、全校で取り組む。</li> <li>・どの学年も、週に一度は図書室に入室するように声かけをする。(本に出会う機会づくり)</li> <li>・学校と家庭とが連携する。毎月23日の「家族読書の日」の意識を徹底し、宿題などで読書を出し、本を読む時間を確保していく。</li> <li>・国語科の中で、多読、おすすめの本紹介、ビブリオバトルなど、学年に応じて取り組み、本に触れ合う機会を持てるようにする。</li> <li>・学校司書、図書ボランティア、図書委員会と協力して、読書環境を発展させていく。</li> </ul>	
	ICT 機器を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫改善を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「タブレットを用い学習をすることが楽しい」に関する肯定的評価は97%、保護者に対するアンケート「進んでタブレット端末を用い学習を行っている」に関する肯定的評価は、84%であった。</li> <li>・職員に対するアンケート「学習指導において、ICT 機器を効果的に活用する実践を行っている」では、肯定的評価が86%であった。</li> <li>・授業において、大型モニタに映して自分の考えを説明したり、プレゼンテーションソフトやマイシードを用い、調べたことをまとめて発表したり、児童同士で考えを交流するなど、授業においてiPadを効果的に活用できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導におけるICT機器の効果的な活用方法を、学年で出し合い共有していく。</li> <li>・継続して家庭学習でのiPadの活用をすすめる。</li> <li>・継続して、使い方のルールや情報モラルについて、学年の発達段階に応じて指導していく。</li> </ul>	
人権教育	一人ひとりが大切にされる集団の中で、つながりを深め、自尊感情を育み、確かな学力と差別を許さない人権意識を育てている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「学校は一人ひとりの人権を大切に、いじめのない集団作りをすすめている」についての肯定的評価は98%(2ポイント上昇)であった。</li> <li>・生活指導でのいじめ防止のためのこまめなアンケート実施と、気になる事象の解決に向けた組織的な取り組みを行うことができた。</li> <li>・ハートフル参観、学級集会を持つ事ができたが、学級集会の参加者が少ないことは、今年度も課題である。</li> <li>・学年で教材研究を進め、特別の教科道徳の学習を進めることができた。</li> <li>・人権教育について、職員研修を持つ事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハートフル参観での学級集会を、人権について保護者と共に考える機会ととらえ、今後も継続し大切に実施していく。</li> <li>・小学校における人権学習についての系統性を知らせるため、学校だよりとして、授業内容とねらい、学級集会の内容やねらいを積極的に伝えていく。</li> <li>・各学年で、授業の指導案やワークシート等をデータ保存し、前年度の指導をもとに積み上げていく。</li> <li>・来年度も、講師招聘や現地研修など計画し、人権研修、不登校児童対応のための職員研修を継続して行う。</li> <li>・肯定的評価の言葉がけを意識し、児童に「自己有用感」を感じさせることに努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育については、一人ひとりが大切にされる地域や社会の実現のためにも、積極的に取り組んでほしい。保護者・地域とともに学んでいきたい。</li> </ul>
保健・安全管理	校内では施設点検を定期的に実施し、校外では保護者・地域と連携して、児童の安全を守る取り組みができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、職員評価とも、肯定的評価が94%以上と大変良好である。</li> <li>・様々な想定で避難訓練を実施することができ、職員、児童共に訓練を通して、安全を確保するための方法について学んでいく機会を持つことができた。</li> <li>・毎月の安全点検に加え、日常でも危険に気づいたとき、その都度改善できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や訓練のふりかえりをもとに、その都度改善することで、緊急時の対応力を高める指導を継続していく。</li> <li>・保健室と担任の連携を密に行い、保護者への連絡を大切にしている。</li> <li>・今後も、定期的に安全点検、避難訓練を行うことで、危険予測、回避能力を養っていく。</li> <li>・来年度、外部講師を招聘した、不審者対応研修を実施を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1.17集会では、地域の防災士と全校児童が共に防災について考えることができた。2年生、3年生と共に防災について体験活動ができて良かった。</li> </ul>

## 6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
10月5日	運動会アンケート実施
11月2日	音楽会のアンケート実施
12月1日	学校評価 児童・保護者・職員アンケート実施
1月9日 1月27日	学校評価、児童・保護者・職員アンケートの分析検討 学校評価職員会議
2月3日	校内図工展アンケート実施
2月7日 3月10日	学校関係者評価委員会の学校関係者評価 学校関係者評価を受け、次年度へ向けた方策検討

## 7 学校関係者評価委員会(学校地域運営協議会)の活動について

時期	内容
6月8日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営方針</li> <li>・地域運営協議会の構成と年間計画</li> <li>・昨年度の学校評価まとめと今年度学校評価について</li> </ul>
10月5日(土)	・運動会参観及び意見徴収
10月11日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、学力学習状況調査結果について</li> <li>・教職員の資質向上の取り組みについて</li> </ul>
11月2日(土)	・音楽会参観及び意見徴収
2月3日(月)	・校内図工展の鑑賞及び意見徴収
2月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート結果と次年度への改善内容について</li> <li>・学校行事、地域での児童の様子</li> <li>・今年度のまとめ</li> </ul>

## 8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
4月	PTA 総会・ホームページ	学校評価結果を踏まえて、今年度の目標や指導方針を説明	
適宜	学校便り・学校掲示板	学校評価に基づいた指導について、適宜周知するとともに、自己評価結果及び改善策について保護者に配布(3月)。	
3月	PTA全体役員会・ホームページ	自己評価及び関係者評価を公表	